

子どもの未来応援団報告書



表題：きらきらいけであそぼう

学校・団体名：箕輪中部小学校

活動グループ名：箕輪中部小学1年3組

担当者・教諭名：唐木菜々美

活動人数：32人

(1) 活動を始めた理由

1 学校探検で見つけたよ！

4.5月は学校の中や周辺を探検しました。入学したばかりの子どもたちにとって、学校の中は初めてみるものばかり。特に気に入ったのは中庭です。

「水冷たい！」「なんか魚がいるよ」「アメンボが泳いでる」

生き物見つけ名人の子どもたち。何度も中庭に通ううちに、「ここに川があったらいいのにね」「そうしたら、こっちにもう一つ池がほしいね」などやりたいことが次々出てきます。そしてそれは、「自分たちで、池を作りたい」という願いになっていきました。中庭では池を作ることができませんでしたが、児童玄関前の広場に池を作っていることになり、1年3組の池づくりの活動がスタートしました。

(2) 活動内容・活動の写真（カラー）

2 池を作る

「どれくらいほるの？」「もっとほらなきゃだめだよ」

スコップやシャベルを手にとって、ひたすらに地面を掘り続ける子どもたち。

「ここは、始まりの池だから大きくしたい！」

「こっちは川だよ。天竜川くらいにしようよ」

固く、石だらけの地面をどんどん掘ります。一緒に掘り進める私も穴掘りに夢中になりました。体全体を使う作業。やればやるほど深くなっていく穴に、確かな実感が伴います。

「ザリガニが来るといいな」

「ザリガニは他の生き物と一緒にしちゃいけないんだよ」

「じゃあ僕、ザリガニ池をつくる！」

ザリガニが見たくて、ザリガニ専用の池を作ることにした男の子たち。おもいおもいに穴を掘り続けました。

掘り始めてから2週間。ようやく水をたくさん溜められそうなくらいの深さになりました。あと少しというところで、大きな大きな石がじゃまをします。

「これをとらなきゃ、ケースが入らない！」

石の周りの土を削っていきます。この石がしぶとくて、ぜんぜん動きません。45分かけて、ようやく取れそうなところまでできました。力を合わせて動かすと、ガバッと石が外れました。取れた、取れたと大喜びの子どもたち。大仕事をした気分です。掘った穴にビニールシートをひき、ケースを埋め込みます。中庭の地下水の蛇口から池にホースをのぼして、後は水が出るのを待つばかり。

「やった！水が出た！ばんざーい!!」

歓声が響きました。ホースを分岐させて、ザリガニ池にも水を溜めます。手前の池を『きらきらいけ』、ザリガニを飼う池を『ザリガニいけ』、奥の池を『1年3組いけ』と名づけました。自分たちで作りに上げた、自分たちだけの池。楽しい毎日が始まりそうです。

3 生きものたくさん遊んだ夏と秋

次の日からさっそく、おたまじゃくしやカエル、サワガニを捕まえてきた子どもたち。学習習慣形成の先生もどじょうやヨコエビやコイ、そしてザリガニを連れてきてくれました。

「ザリガニかっこいいー！」「カニは隅っこに隠れちゃったよ」

「ヨコエビって小さくてかわいいね」

「ザリガニ持ちたいけど怖いよ」「ここを掴めば持てるよ」



生き物をじっくり観察したり、触ってみたりそれぞれの楽しみ方で生き物とふれあいます。夏になると、水遊びも始まりました。冷たい地下水をかけ合い、びしょぬれになりながら夏を楽しみます。土に水を混ぜまごごとをしたり、泥団子を作ったりもしました。きらきらいけの水が遊びの幅を広げてくれます。

秋になると、きらきらいけにトンボやバッタがやってきました。虫取り網を家から持ってきて、トンボやバッタと鬼ごっこをする日々が始まりました。生き物とふれあっていると、あっという間に時間が過ぎていきます。子どもたちの姿を見ていると、私も子どものころ夢中でトンボを追いかけたときのことを思い出しました。誰しもがこういった原体験の積み重ねで大人になっていきます。きらきらいけの周りで過ごしたこの日々が、この子たちにとっての原体験になればいいなと思います。

4 池を凍らせたいな

「寒くなったら、池は凍るかな？」 「池が凍ったところを見たいな」

生き物が息を潜める冬。子どもたちの次の関心は、水が氷へと変わることでした。しかし、池の水は地下水を汲み上げているため、冬には水が止まってしまう。話し合いを進める中で、「氷でつくるアイスキャンドルっていうのがあるらしいよ」とある子が言うてくれました。そこからどンドン話が広がり、「氷とキャンドルを作って、池のまわりでアイスキャンドルまつりをする」ということになりました。

冬休み明け、氷づくりが始まりました。帰る前に牛乳パックに水とくぼみを作るために空き缶を入れ、外におきます。その日の最低気温は-4℃。凍っているだろうと思っていた翌日。「先生、ぜんぜん凍ってないよ！」「なんで～？」表面だけが凍っているだけで、ほとんど水のままでした。

「ベランダがいけないんじゃない？」

「もっと日陰のところに置いたほうがいいよ」

その日は、木と小屋の影になる場所へ牛乳パックを置いて帰りました。しかし、そこでも凍りません。

「もっと寒そうなところを探さなきゃいけないよ」

「なんか、固い缶の方が凍ってるきがする」

「スチール缶っていうんだよ」「スチール缶だけにしてみようよ」

スチール缶の方がアルミ缶よりは凍ったものの、全部は凍らなかったのも、いっそのこと缶は入れずに凍らせてみることに。また、理科の先生にどうしたら凍るか聞いてみました。風がビュンビュン吹いているところがいいよと教えてもらったので、学校の西側のベランダに置くことにしました。

「今までで1番凍ってるよ！」「氷ができた！」

しっかり凍って大成功です。凍るまでに、子どもたちが「なぜ、凍らないのだろう」「どうすれば凍るのだろう」と繰り返し考えていて、私も一緒に試行錯誤できました。

5 アイスキャンドルまつりをしたよ

金曜日の夕方、保護者と学校に集ってもらい、アイスキャンドルまつりを行いました。アイスキャンドルへ点灯。「わあ、きれい」と呟いた後、もっと歓声上がるだろうと予想していたのに反して、子どもたちは静かにアイスキャンドルを見つめていました。きらきら池が本当にきらきら輝いているときを、静寂とともにみんなで味わうよい時が過ごせました。その後は、自分たちで考えた「きらきらいけのうた」を歌ったり、企画をやったりして残りの時間を楽しみました。



(3) 活動結果

6 まとめ

自分たちで作った自分たちだけの場所。心ゆくまでそこで過ごせたことで、次々に願いが生まれ遊びの幅が広がっていきました。「今日は池でこんなことして遊ぶんだ」と、登校してきてすぐに話してくれる姿、友だちとびしょぬれになって遊ぶ姿がありました。中部小での生活の中にきらきら池があり、それが子どもたちの生活の一部になったことを嬉しく思います。